

福島第一原子力発電所の状況

平成26年10月31日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (10/31 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m ³ /h	25.6	3.4 kPa g	A系： 0.03	vol%
		給水系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.03	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.5 m ³ /h	32.3	6.76 kPa g	A系： 0.07	Vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.07	Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.5 m ³ /h	30.9	0.21 kPa g	A系： 0.07	Vol%
		給水系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.05	Vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (10/31 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	21.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	18.5 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	17.0 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	17.1 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/27 10:43 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/31 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/10/29 9:30 汚染水処理設備のうち淡水化装置について、制御盤の改造およびプログラム変更を行うため、関連する以下の設備を停止または循環待機運転とし、制御盤の改造を実施。

10/30 15:00 作業が終了したことから、制御盤を復旧。制御盤の復旧に伴い、ホット試験中である以下の設備について操作を実施。

<10/30>

○多核種除去設備 処理運転状態：(A系)17:14

(B系)15:37

(C系)15:11

○増設多核種除去設備 処理運転状態：[A系については停止中]

(B系)18:42

(C系)15:37

○高性能多核種除去設備については、引き続きホット試験を実施中。

なお、増設多核種除去設備(A系)、第二セシウム吸着装置(SARRY)、淡水化装置(RO)については10/31に起動予定。

<5. その他>

- H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
 - 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
 - 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
 - 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
 - 10/16～ 2号機開削ダクトについて、間詰め充填工事を開始。
 - 10/20～ 2号機立坑Aについて、間詰め充填工事を開始。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
 - 6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
 - 10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。
- H26/10/22 7:08～ 1号機原子炉建屋カバー解体作業における放射性物質の飛散抑制対策の一環として、当該カバー屋根パネルを取り外す前に同パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布する作業を開始。
 - 10/29 8:45 屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布が終了。当該作業期間中において、各ダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はなかった。
 - 10/31 7:18 オペレーティングフロアの瓦礫調査およびダスト濃度調査等を実施するため、建屋カバー屋根パネル2枚(南3・北3)の取り外し作業を行うこととしており、1枚目(南3)の取り外し作業を開始。ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等については、同日7:30現在で有意な変動は確認されていない。なお、屋根パネル1枚目(南3)を取り外した後、オペレーティングフロアの瓦礫調査およびダスト濃度測定等を実施し、その後、飛散防止剤の散布を行った上で、屋根パネル2枚目(北3)を取り外す。屋根パネル2枚目の取り外しの終了は11/7頃になる見込み。
屋根パネルの取り外し作業時においても、飛散防止剤散布による十分な飛散抑制対策を実施するとともに、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等の監視を十分行いながら、慎重に作業を進める。なお、取り外した屋根パネル2枚については、瓦礫調査およびダスト濃度調査等が終了した後、一旦元の位置に戻す予定。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井No.1～12のサンプリングを継続実施中。(No.11は藻のような生物を汲み上げた原因調査のため、10/15より停止中)

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【1～4号機サブドレンの状況】

- 10/18～ サブドレン他水処理施設については、一部のサブドレンピットを使用して、H26/8/12より安定稼働に向けた浄化性能確認試験等を開始しているが、残りのサブドレンピット28箇所を加え、計42箇所(実際はトリチウム濃度の高いNo.1,N14を除く40箇所)について、系統運転試験(STEP3-2)のための地下水のくみ上げを開始。
- 10/24～ 地下水ドレンピットを使用して、使用前検査のための地下水のくみ上げを開始。
- 1～4号機建屋近傍のサブドレン(全42箇所)については、ピット内の水質調査のため、サンプリングを実施。その中で、2号機原子炉建屋西側に設置されているサブドレンNo.18およびNo.19について、10/22および10/23にサンプリングした水のセシウム134およびセシウム137が、その周囲のサブドレンに比べて高い濃度であることを確認したことから、当

該および周辺のサブドレンについて傾向を監視中。なお、No.18 および No.19 からの地下水汲み上げを、当面の間、停止。その後の原因調査において、当該サブドレンは、高線量等で復旧をしていないサブドレン No.15、No.16、No.17 と横引き管で連結されていることから、10/29 に震災後初めてサブドレン No.16 の水の放射能分析を実施したところ、セシウム 134 で 85 万 Bq/L、セシウム 137 で 290 万 Bq/L、全ベータで 320 万 Bq/L、トリチウムで 8 万 4,000 Bq/L という結果が得られた。

このことから、10/18、19 にサブドレン浄化性能確認試験の一環で、当該サブドレン揚水ポンプを稼働した際に、連結管でつながっているサブドレン No.15、No.16、No.17 ピットから、放射能物質含んだ水を徐々に引き込んだものと推定した。また、これらのサブドレンは 2 号機原子炉建屋より山側に設置しており、水位は建屋滞留水の水位より十分に高いことおよび当該サブドレン水と 2 号機タービン建屋滞留水の放射能組成比は異なっていることから、建屋滞留水の流入ではなく、フォールアウトの影響によるものと考えられる。今後、当該サブドレンと連結管でつながっている高線量等で復旧をしていないサブドレンピットの閉塞等を検討していく。なお、原因の推定が出来たことおよび 10/24 以降当該サブドレン水の放射能濃度は低下しその値に有意な変動がないことから、作業員の被ばく低減の観点で、当該および周辺のサブドレンの放射能分析を 1 日 1 回から 1 週間に 1 回に頻度を変更し、傾向を監視していく。

<最新のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<サブドレン No.18>

(10/30 採取)

セシウム 134: 9.9×10^2 Bq/L

セシウム 137: 3.4×10^3 Bq/L

<サブドレン No.19>

(10/30 採取)

セシウム 134: 8.5×10^1 Bq/L

セシウム 137: 3.3×10^2 Bq/L

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上